

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 5月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3470103270		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・不動産		
所在地 (電話番号)	広島市東区牛田新町三丁目5番21号 (電話) 082-511-3281		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年5月15日	評価確定日	平成21年5月25日

【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	6.1 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	新築 / (改築)
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	370 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79 歳	最低 72 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋山クリニック・松本歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ひなたぼっこ・不動産」では、全職員が入居者の方々にしてあげる前に、待ってみて、時間がかかるかもしれないが、やり遂げられたら、どんなに自信が保たれることかということをよく理解しながら、日々のその人らしい暮らしへの支援が行われている。また、多くの入居者が、日中の大半を本人にとっては特に、安心とリラックスできる場所となっているリビングで、一人ひとりのペースに合わせてながら、過ごされている。当ホームでは、ここ最近若干職員の交代があったようではあるが、この機会を捉えて管理者と全職員は理念を再度確認しあいながら、ケアの意見の統一も図られている。このことは、多くの入居者の方々が笑顔で落ち着いて暮らされていることから伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、同業者との交流を通じた向上が期待されていたが、その後広島市内の多くの同業者が参加されているグループホーム交流会に参加しながら、事例検討等を通じて、事業所外の人材の意見や経験をケアに活かされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 事業所全体で、自己評価の目的や活用方法をよく理解して取り組まれており、その結果を踏まえて全職員で話し合っサービス確保に活かしていこうとする姿勢が伺えた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、家族代表、地域包括支援センターの職員等が参加して開催されており、事業所からの報告とともに家族の抱えている問題や、地域との交流等について話し合われており、双方向的な会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 常日頃から、入居者のその人なりの具体的な暮らしの有り様の情報や、いっしょに介護を乗り越えるために、気づき、願いごとを積極的に得ながら支援と運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) その日の天候や入居者の要望及び状況に合わせてながら、入居者と職員がともにホームの近くの神社に散歩や買い物にでかけた際には、近隣の方たちと挨拶を交わしたりして、行き来のきっかけづくりを行っており、このことにより隣近所の人たちから季節の植物の差し入れをいただく関係も作られている。また、地域のお祭りや行事には入居者とともに積極的に参加をして、地元の人々との交流をすることにも努められている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の方々が、住み慣れた地域の中で楽しく、安心して暮し続けるための理念が作りあげられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常日頃から、管理者と職員はともに入居者への支援が理念にもとづいたものとなっているのかをよく話し合い、確認しながら理念の実践に向けて取り組んでいる。		理念を今以上に具体化させるためには、理念を掘り下げて全職員で話し合い、わかりやすい目標を策定されることへの検討が期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議でも働きかけるとともに、ホームからも地区行事の情報を集め、それらに参加しながら接点を持つ努力がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意識がより職員に浸透するよう、一人ひとりに自己評価を課している。特に今後取り組んでいきたいことについて力点を置いて、自分たちの努力で改善できるところは実践につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族代表を始め、地域包括支援センターの職員等が参加して、定期的開催されている。ホームの運営や活動の現状報告の後、それぞれの立場から積極的な意見交換がなされており、運営やサービスの質の向上に向けた取り組みに反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に、不定期ではあるが所轄の市の職員が参加された機会や、定期的に参加をされている地域包括支援センターの職員と、連携を図りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には必ずホームでの生活の様子を報告するとともに、他には広報誌や、毎月担当者から手紙を郵送して様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別のコミュニケーションのほか、家族会も設けており、普段話せないようなことも踏み込んで話をしながら、家族の心情を汲み取るように心がけている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の参加は各職員に案内しながら希望を取り、勤務体制に配慮して参加しやすいように支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広島市内の多くの同業者が加入している交流会に参加することにより、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居にあたっては体験、見学やケアマネジャーとの連携を取って、本人が安心、納得して入居できるように支援しており、入居後も家族の面会を多くして、本人の状態に応じた支援ができるように家族と相談しながら取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者と常に一緒にいて、菜園の手入れをしたり、話をしたりしてともに生活していることで家族のような気持ちで学んだり、支援に取り組んでいることがヒアリングから確認できた。入居者からも、食事の後片付けを職員とともにしていること等の話が聞けた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ほとんどの入居者が会話によってコミュニケーションを取れる状態であり、包括的な意向の把握に取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は入居者ごとの担当制となっており、本人、家族の意向に沿いながら、また、主治医等の意見も聞きながら、ケア会議で他の職員の意見も参考にして、計画作成担当者とともに介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヵ月ごとの見直しを基本に入居者の変化に気を付けながら、計画作成担当者との協議や家族と相談して、見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事療法への対応や早期退院に向けた支援にも取り組むほか、日常的にグループホーム内の生活だけでなく、活動範囲に幅のある生活を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医との関係を大切に、入居後も本人・家族の希望により継続した関係が保たれるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的な対応・看取り等に関する指針書を作成し、早期から話し合いと関係者全体の方針を統一して、看取り介護に取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	例えば、排泄支援等でも周りに気づかれないようにさりげなく誘導を行ったり、居室の入室時にも許可を得たり、個別台帳についても適切に管理されており、日頃の徹底ぶりが伺えた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日常生活の日課や望んでいるペースに合わせた暮らしの支援に職員はあわせながら、個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は季節の食材や入居者の希望を採り入れながら献立を作成しており、また一人ひとりの能力に応じて準備や調理、盛り付け、後片付けを行ってもらっている。食事は職員も声かけや会話をしながら一緒にしており、楽しく食事ができる雰囲気となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活習慣やその日の希望にあわせて、入浴できるように柔軟な支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前の個々の生活習慣を把握して、食事作り、盛り付け、洗濯物をたたんだり、趣味等で役割や楽しみのある日々を支援するとともに、外出の機会を確保したり、一緒に過ごしながらい居者の思いにもできる限り応えるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩だけではなく、全員に外出する機会が確保できるように、計画的に食材やおやつ等の買い物あるいはドライブに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は一人ひとりの外出の傾向やクセをつかんで、職員同士の声かけや連携プレーで対応して鍵をかけないケアに努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、定期的に避難訓練を実施している。また、消火器や避難経路等の設備点検や災害時等の職員の役割分担についても定期的に確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活習慣や日頃の様子を観察しながら、一人ひとりにあった個別の食の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、五感刺激への配慮が行き届き、リビング等はゆとりがあり個々の入居者にとっては、居心地の良い安心感のある場所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ごとに入居者の馴染みの家具や思い出の品等が持ち込まれており、本人の居心地の良い落ち着いた生活について、家族の協力が得られた支援がなされている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ひなたぼっこ・不動院

評価年月日 平成 21 年 4 月 20 日

評価年月日 平成 21 年 4 月 20 日

記入者 職 ホーム長 氏名 沼津 一徳

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		独自の理念を廊下に掲示している。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域への貢献はできていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義はサービスの向上と理解しており、ひとつずつ改善するときに活用している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業内容、サービスについての報告は行なっているが具体的にサービス向上に活かされるような話し合いはできていない。		サービス向上のための話し合いの他にホームで困っている事などを相談できる場にしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	できていない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行なっていない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	改めて学ぶ機会は設けていない。日常のケアについて話し合う中でお互い反省に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとり丁寧に説明している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段から意見、不満等に耳を傾け、様子や表情から思いを察する努力をし、入居者本位の運営を心がけている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、個人ごとにたよりを作成し、家族に配布している。必要時には電話連絡を行なっている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当者名の公表や外部に伝えてもよい事柄を書面で提示している。また、普段から家族の意見を把握するよう努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、毎日の申し送りの中で意見を言い合い反映されている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な時に職員が確保できるように努力はしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者、家族との信頼関係が重要と考えており、離職がやむを得ない場合もその時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の必要性は認識しているが、研修に積極的に参加できるような環境作りができていない。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム交流会に参加し、ネットワーク作りに努めている。他事業所の行事に参加するなど交流も行い、刺激をうけている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個別に話しを聞いたりしているが十分とはいえない。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>できる限り職員の意見を採用し、やりがいを持って働けるようにしている。</p>	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に面談を行い、状態把握に努め、必要であれば体験入居を行い、不安の軽減を図っている。また、普段の生活のケアから『聞く』事を心がけている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の要望を把握する事に努め、ホームとしてどのような対応ができるのか説明するようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の状態、状況の把握に努め、必要なサービスにつなげられるようにしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族に見学していただく事から始め、求められれば体験入居も行なえるようにしている。また、家族が可能なら面会も積極的にお願いしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の不安、苦しみを知る事に努め、こだわり等も受容し、理解できるように努めている。また入居者から教わる事もたくさんある事を職員は実感している。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>これまでの家族の苦労を理解した上で、共に本人を支えていく気持ちを確認するようにしている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>入居者本人がホームで穏やかに暮らせる事が家族との関係支援につながると考え、本人のケアを主眼としている。</p>		<p>入居者が家族と共に過ごせる時間が増やせる取り組みについて考えていきたい</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の協力や本人の体力、複雑な事情等で実現が難しい事が多い。しかし、手紙・電話・外出・ホームへの来訪等、可能な範囲で努めている。</p>		<p>もっとできる事はないか検討していきたい</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>入居者同士の関係性について情報を職員全員が共有できるようにし、職員が調整役となって円滑な関係ができるよう努めている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も職員が面会に行き、本人、家族と話す事がある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通ができる、困難に関わらず日々の関わりや言動から本人の意向を把握するように努め職員全体で話し合っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後に関わらず本人、家族から情報収集に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムの把握に努め、そのリズムに添った生活が送れるようにしている。また、持っている能力を把握するため、いろいろトライしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族との日々の関わりにより、意見・要望を聞き、反映させている。職員全員で意見交換も行なっている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に関わらず、状態の変化があれば即時対応するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、言動を個々の記録に残している。申し送り等で情報の共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や個別の外出を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に2回、民謡ボランティアの方が来られて民謡を披露してもらったり、共に歌ったりしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の状態に応じて、訪問歯科診療、訪問看護を利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には参加していただいているがまだ協力関係を築くまでいたっていない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医師・病院を受診できるようになっている。また、通院に関しても家族が困難な場合には職員が行っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症に詳しく、日常的に相談できる医療機関はない。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>週に1度は協力医療機関より看護師がホームに訪問し、その際に相談・助言をもらっている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には本人への支援方法に関する情報を提供し、医師とも話し合い早期退院に向けアプローチしている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人を含めた話し合いはできていないが、かかりつけ医、家族、関係者で話し合い対応方針を検討している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>かかりつけ医と話し合いを繰り返したり、ケースを共有する事でかかりつけ医がホームでできる事とできない事を把握して下さりチームとしての支援ができ始めた。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>必要な情報提供を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>状況に応じた声かけや対応を行なっている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者に合わせた声かけや働きかけを行い、本人の気分・体調に合わせた生活を送ってもらっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが一人一人のペース、体調、気分に合わせて生活を送ってもらっている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>基本的に本人が衣服を決めており、自己決定しにくい入居者には職員がコーディネートしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理、盛り付け、片付け等は入居者と一緒に行い、職員と入居者が同じテーブルで食事している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>日常的に嗜好品を楽しむ状況はできていないが可能な範囲内で個別に対応している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンの把握に努め、その人のパターンに合わせた声かけや誘導のタイミングを図って支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外はお風呂を沸かし、本人の希望に添って入浴してもらっているが入浴できる時間は決まっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日々の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、各人の様子をみてリビングや居室で休めるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、盛り付け、洗濯物たたみ等できる事はやっていただき、感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、作業としては成立しない方もいるがその方独自の存在感が果たす役割もあると思う。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解が得られた入居者に関しては、なくなっても差し支えない範囲内で自己管理してもらっているが、特別な支援はしていない。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物は定期的に出かけ、天気や入居者の状態に応じてドライブなども行なっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員の勤務を調整し、できる限り本人の希望に添えるよう努めている。場合によっては家族に協力依頼している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状は出している。電話はこちらから用事があってかけた際や家族からかかってきた際に本人とも話してもらうようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を定めず、いつでも気軽に訪問していただけるよう話している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送り等でケアを振り返り、自覚していない身体的拘束が行なわれていないか確認している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の同意を得て玄関に施錠させてもらっている。『1度外に出れば』『理由があって外出する』という方には見守り可能かもしれないが、常に外に出ようとする方に対しての対応がほかに見つからない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で過ごしており、夜間も2時間毎に巡回を行ない、2階の様子が1階にいても分かるようにモニター設置している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に応じて管理を行なっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きた際は、事故発生報告者を作成し、事故原因と今後の予防方法について検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急法の研修を実施し、全職員が対応できるようにしている。		研修だけでは不安を感じる職員もいるため、急変時のマニュアルを作成した。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練実施している。夜間想定 of 避難訓練も実施しているが、近所の方への働きかけは積極的には行っていない。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	随時、家族と話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	様子、顔色等の異常時は職員で話し合い、必要な際はかかりつけ医への相談、受診を行なっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人の記録に保管し、全職員が把握できるようにしている。処方に変化があった際は、申し送り等で、全員に伝わるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘のひどい入居者には寒天を食べてもらったり、運動を促したりと下剤に頼らないように心がけてはいるがなかなか成果は出ていない。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人に応じた歯磨きを支援しているが、十分とはいえない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>カロリー制限・食事量など、入居者の状態、持病、好みに応じて対応している。また、毎食の摂取状況は記録している。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザやノロウイルスは予防接種や日頃の消毒で対応している。</p>		
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>まな板、布きん等調理道具は毎日漂白し、食材には購入日を記入し、古い物から使うように努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>以前からあるブロック塀や鉄柱等が暗い印象を与えている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その月、季節に合わせた貼り絵を入居者に作っていただきそれを飾り季節感を演出するようにしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にベンチ、リビングにソファを設置しているが一人一人が各自で居場所を作っているかは疑問。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前使っていた物を持ってきていただけるように家族にお願いしているが、実際はあまり持ち込まれてはいない。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の要望・様子をみながら随時換気・温度調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫はされていないが、適度に不便なところがあって、かえって身体機能を維持するのに役に立っているのではないかと思う。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できる事はやっていただき、できない事はさりげなく補い、入居者の自尊心を高めるように努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの裏に畑を作り、草取り、水遣り等行なってもらっている。		